

議事録

日 時：令和3年12月24日(金) 14時00分～15時45分

場 所：美濃加茂市役所3階第一議会委員会室

出席委員：15名

1 開 会(14:00)

(事務局 久保田)

2 会長挨拶

(市長)年末で大変お忙しい中、令和3年度第5回の協議会に出席いただきまして、誠にありがとうございます。コロナの状況でございますけれども、県内、全国的にもそうですが、少し落ち着いてる感がございますけれども昨日のニュース等ですね、いよいよオミクロン株という新しい大変感染力の強いものの市中感染も出たということで、予断を許さない状態になっております。そういった中で、今日は感染防止対策をしっかりとやって、会議を進めてまいりたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。本日は、事業評価、あい愛バスの状況等について、情報を皆さんと共有してどういう課題あるいはどういう評価があるのかということについてご意見を賜りたいと思います。また、EVバスというものについても、来年導入を考えておりますので、そういったデザイン等についても、今日お知らせさせていただきます。あい愛バスも市民の皆さんに活用いただき少しずつですが、コロナ禍においても増えてきております。これは皆さん方のおかげだと感謝申し上げます。今後は、ますます利用者が増えるように努力してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。今日は会議をよろしくお願ひ申し上げます。

3 議 題

(座長 松本)それではお手元の次第に従いまして、まずは議第1号地域公共交通確保維持改善事業、事業評価についてということで事務局からご説明お願いいたします。

・議第1号 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について

(事務局)それでは議第1号地域公共交通確保維持改善事業、事業評価についてご説明させていただきます。当市では、あい愛バスの一部路線につきまして、国土交通省様の補助をいただきまして、公共交通確保維持改善事業の地域内フィーダー系統確保維持計画事業というものを活用しまして運行の確保維持を図ってきているところでございます。当市のフィーダー系統といいますのは、地域幹線と位置づけますJR高山本線に接続する、地域支線となりまして一定の条件を満たした路線となります。この運行に対しまして補助を受けることができます。対象路線としましては、あまちの森・しょうよう線、フルーツ山之上線、

フルーツ蜂屋線、さとやま線が対象となっております。この事業の実施に当たりまして、毎年対象路線の成果等を自己評価し国に報告することとなっております。今年度は中部運輸局様の方で行われます第三者評価委員会への出席というものはありませんので、別紙資料の別添1と別添1-2を提出することとなります。これに伴いまして当協議会で自己評価を行い提出することとなりますので、事務局の作成案について皆様のご意見等をいただきたいと思っております。それでは資料1の方をご覧ください。まずは様式別添1になりますけれども、対象となる4路線についてそれぞれ評価を行っております。項目③の過去の事業評価結果の反映状況になりますが、昨年度の評価では前網形成計画に基づき実施しておりまして、その利用者目標値の設定が低く設定されておることでもございまして、4路線全てが目標を達成しておりました。全て前回はA評価としておりましたので、今回特に全て目標達成していたということで、引き続き、コミュニティバスの利用促進に向け、継続的なダイヤ改正のほか、YouTubeへのPR動画公開、バスに親しむ日の実施、ICTを活用したサービスの提供などによりまして、利便性及び効率性の向上に努めているということとしております。次に④の事業の実施の適切性についてになりますけれども、道路規制や災害によるものを除きまして、4路線ともに、年間を通じまして計画通りで運休や減便をすることなく運行しておりますので全てA評価としております。次に⑤の目標効果達成状況になりますけれども、今回から第2次網形成計画の目標値に基づきまして評価を実施することとなります。このため過去最高でありました令和元年度の実績も踏まえましてこれまでより高い目標値により各路線の達成状況を評価しております。その結果としまして、フルーツ山之上線とフルーツ蜂屋線の2路線が目標を達成しておりました、A評価としております。この目標を達成した要因についてご説明させていただきたいと思っております。資料の末尾にもつけてございますが、路線ごとの考察というものもあわせてご覧いただきながらお聞きいただければと思います。この評価に当たりましては、特に乗降調査によるODデータ等を取っておりませんので、あくまでもバス停ごとの利用者データ、運転手や窓口で得る情報から、推測させていただき、各路線の特性というものにしております。コロナ禍によりまして、まだ外出を控える方もお見えになりまして、利用が落ち込んでいるバス停がやはりいくつかあります。その一方で、昨年のダイヤ改正や、市内の高校へ改めてPRをさせていただき、その他、今、新型コロナウイルス、ワクチン接種の促進というものが進んでおりました、これにより市民の安心感により外出の機会が増えたことや、コロナ対策をしっかりと行いながら、運行も維持しておりますので、このようなことによりまして、逆に利用が増えてきているバス停というのも多くございまして、やはり利用の定着に加えまして、新規利用者も増えているところでございます。そういった利用も踏まえてこの2路線それぞれの全体の利用が増えてきているものと考えております。またこの2路線につきましては、過去最高でありました令和元年度の利用者と比較しても、これを大きく上回っております。乗り継ぎの拠点となる美濃太田駅の利用が増えているほか、フルーツ山之上線では、特に美濃加茂高校グラウンドの利用が大きく増えておりました、このことから通学利用が高まっているものと考えております。なおこの2路線に限らず、多くの路線に共通して、美濃太田駅の利用が増えているということがわかっております。そういったことから各地域からの通学利用の他、買い物等の外出利用も増えたことが要因だと考えております。続きましてあまの森・しょうよう線とさとや

ま線の2路線につきまして、こちらは残念ながら目標を達成しておりません。要因としましては、やはりコロナ禍による影響だと考えておりました、それによる利用の落ち込みであると考えております。しかしながらこのコロナ禍において、第3波から第5波に見舞われ、学校の休校や外出自粛の影響もある中、どちらも目標値の10%以下の落ち込みにとどまっております。中部運輸局様が公表している令和2年度の中部地域の乗合バスの利用状況統計をみますと、30%ほどの落ち込みとなっているということもございまして、このことから見ましてもより多くの方に利用されているものと考えておりますのでその点は評価しまして、B評価とさせていただきます。この2路線につきましても令和元年度と比較し大きく利用は上回っております。先ほどの2路線と同様に、利用が落ち込んでいるというバス停もいくつかありますけれども、一方で利用が増えているバス停もありまして、商業地付近に置いてあるバス停になりますけれども、あまちの森・しょうよう線では、八坂、オークワ坂祝店、さとやま線では駅北商業団地の利用が増えてきておりまして、やはり買い物利用が高まっているものと考えております。また、あまちの森・しょうよう線につきましては、西体育館の利用も増えております。これは、ワクチン接種を促進するために、接種券とともに、バスの無料乗車券というものを配布しておりますけれども、これを利用して集団接種会場となる西体育館への来場に利用されているものではないかというふうに考えております。次に、⑥番の事業の今後の改善点としましては、このような現状を踏まえまして、4路線ともに運行を継続していくとともに、各種利用促進策を推進し、公共交通利用の関心や意識の向上を図り、利用を高めていくこととします。また、目標未達成の2路線につきましては、加えて目標達成に向け、外出を控える方に対し、利用を促すPR等に取り組むこととします。続きまして2ページ目になりますけれども、こちらはこの補助金事業によりまして地域交通の目指すべき姿について記載することとなっておりますが、網形成計画などから引用し記載させていただきます。なおこの提出書類につきましては今後内容につきまして、岐阜運輸支局様のご指導もいただきながら改めて作成しまして、軽微な変更につきましては事務局一任とさせていただきますのでご了承ください。次に、3ページ目になりますけれども、あい愛バスの全路線の評価もあわせて行っておりますので、これについてご説明をさせていただきます。緑色で網かけさせていただいた部分は先ほどお話ししましたので省略させていただきます。それではまず始めにむくの木・そうきち線になりますけれども、こちら目標達成をしております。状況から見まして利用は定着してきておるんですけれども他の好調な路線と比較すると、全体的に伸びがありませんので、目標達成率が90%を下回っていることや、令和元年度と比較しても若干下回っているということで、そういったことを踏まえてC評価というふうにさせていただきました。利用が落ち込んでいるバス停が多くある一方で、利用が増えているバス停もいくつかございまして、その中で特に古井駅の利用が増えているという状況になっております。通学利用のほか周辺の方の外出機会が高まっているため、そこの利用が高まったのではないかと考えておるところでございまして。全体としましてはまだ沿線地域の方に外出自粛の影響が残るせいもあってか、他の路線と比べると利用の伸びがないということもございまして今後の利用状況に注意を払うこととしたいと思います。次にほたる線になりますけれどもこちらも目標を達成しておりません。こちらも利用が定着して多いんですけれども好調な路線と比較するとやはり伸びがありません

でして、目標達成率が90%を下回っております。令和元年度の比較でも若干下回っているということもありましてこちらもC評価とさせていただきます。こちらの路線も利用が落ち込んでいるバス停が多くある中でですね、利用が増えているバス停というのはいくつかございます。特に食品スーパーアルビスの利用が増加しております、こちらもやはり買い物利用が高まっているのではないかと考えております。しかしこの路線も先程の路線と同様に全体では利用の伸びがないため、今後利用状況に注意を払っていきたいと考えております。次に、古井駅-可児川駅線になりますがこちらは目標を達成しております。こちらも利用定着に加えまして、新規の通学利用者も増えてきたことで、利用がやはり増加してきておりまして、目標の達成に加え、令和元年度比較が大きく上回っているということから、A評価としております。こちらにつきましても落ち込んでいるバス停がいくつか見られますけれども、利用が増えているバス停の方も多くなってきております。その中で、美濃加茂高校の利用が大きく増えておりまして、通学利用が高まっているものと考えております。次に、まちなかぐるっと線になりますけれども、こちらは目標を達成しておりません。利用の定着はありますが、やはり他路線と比較すると伸びがございません。しかも目標達成率は90%を上回ってはいるんですけれども、令和元年度比較では若干下回っている状況から、C評価としております。こちらも利用が落ち込んでいるバス停がちょっと多くあるという状況もございます。特に総合福祉会館は、施設の休館の影響、あと、木沢記念病院もおそらくコロナにより受診を見送った影響もあると考えておりますが、利用が大きく減少しておるところでございます。一方で令和2年10月のダイヤ改正によりまして、新たにルート延長し、経由地を増やしましたことで、新設バス停のほか、既存バス停でも利用が増えているところがございます。その中で、MEGA ドン・キホーテ UNY 美濃加茂店、食品スーパーアルビスにつきましては利用が増えてきておりまして、やはりこちらも買い物の利用が高まっているのではないかと考えております。このように一部では利用が高まっていますが、今後も状況に注意を払いたいと思っております。次に3公園連絡線がありますけれども、こちらは目標を達成しております。こちらも利用が定着したことに加えて、新規の利用者も増えているということで、利用が増加しております、目標の達成に加えまして、令和元年度比でも上回っている状況からA評価としております。こちらにつきましても利用が落ち込んでいるバス停がいくつか見られます。その中で、ぎふ清流里山公園につきましては、やはり各種イベントの中止という影響もございまして、利用が大きく減少しております。その一方で令和2年10月のダイヤ改正によりまして、こちらも既存路線を見直しまして、地域線との乗り継ぎやすさを改善したということと、新たにルートを延長し経由地を増やしたことで全体的には利用が高まっているという状況になっております。最後にまとめとしまして、令和3年度の全路線の総利用者数は過去最高の10万3880人となりまして、目標の達成率で見ますと96.19%ということになっておりますけれども、コロナ禍の影響を受けながらも市民らの生活を支える移動手段として大きな役割を果たしているのではないかと考えております。また引き続き適正なダイヤの見直しとか、利用促進に努めるなど、今後も取り組んでいきたいと考えております。少し長くなりました。以上で説明とさせていただきます。

(座長 松本)はいどうもありがとうございました。これはですね、補助金をも

らっているために国にこの会議で自己評価した結果を提出しないといけないということで、1枚目の資料1にありました通り、ABCの中でAとBという評価というご提案をいただいております。それから、国に出すのはこの4路線だけですがその他につきましても3ページ目以降、利用状況について分析いただいたということでございます。はいこれに関しましてご質問ご意見等ございましたらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。今事務局からもご説明ありましたが、他の自治体に比べて非常に頑張っている状況です。他の自治体、岐阜県内も一緒だと思いますがかなり落ち込んでるところが目立つ中で、本当に美濃加茂市は健闘しておりまして、特に元年比でも増えているという、目標設定が低いというわけではないが元年に比べても増えているというのと、本当に特殊な例だなあと感じております。今後こういったいろんな事例が出てくるときっといろんな自治体さんからの問い合わせもあって、それはそれで美濃加茂市担当者の方も大変だと思いますけど、それぐらい特異な例かなと思っています。

(東濃鉄道 田中)弊社路線バス、今年度でいうと、例年の7割といった状態です。その中で、この数字を出してるとっていう本当に驚異的かなというふうに思います。うちの会社の努力が足りないって話もあるかもしれないんですけども、一番に数字を伸ばしてるとっていうのは、何の効果だと思われてるのでしょうか。

(事務局)やはり平成29年の再編が大きくきっかけとなっているんですけども、それまでは1日に4便しかないとか、地域には週2回しか行かないとか、そういう状況の中で運行してきたわけなんですけれども、それを大きく見直そうとした際に、地域の住民の方に何度も集っていただきまして、その要望とか、目的をいろいろ教えていただきながら路線を組んだり、目的地を設定したりする中で、1日4便が8便になったことと、毎日どこでも走れるということになったこと。まずこれがやっぱり利用者の「これは使えるな」という感覚を少しずつ定着させてきたことが、一番の要因かなと思っています。あとは情報の発信とかそういったものも、気に留めさせていただいて、ホームページとか広報とかでもいろいろ他の課にも関係していただきまして、いろいろあい愛バスの紹介をしていただいたといったところで周知を広めてきたこと。あと、イベントとかでも出向いて若い世代からお年寄りまでいろんな方に情報発信をして認知をしていただいたということでそのインフラ整備に加えてそういった周知をしてきたことで、数字も徐々に増えてきておりますので、どんどん認知が高まってきているというふうに考えております。あとはいろいろな先進的なサービスを積極的にできる限り取り入れるということで位置情報サービスを取り入れたりとか、長良川鉄道さんでもやっておられるんですけどもスマートフォンで定期券を購入できるとかそういった先進的なところも積極的に努めながら、とにかく前へ前へ進めてきたことが要因ではないかなと。私、担当者としては特にこれってというのがないんですけど、やはり皆さんが今まで乗れなかったものが、「これは使えるぞ」というふうに市民の方が感じていただける、そういった方がどんどん増えてきたということではないかと思っています。あとは定期的にダイヤ改正する都度、いろいろな見直し、利便性の向上を常に考えながら進めてきてますので、今まで使えなかったものが使えるというふうに思っただけ

方を少しずつ増やしてきたっていうのがこういう取り組みに繋がっているんだと思いますし、あと最後ですけど一番は高校生の利用がどんどん増えている。ここを目的とした路線を当初から目指して組んできているのと、随時的にPRをしている、そういったところで、特にこれというのはないんですが、地道な活動が繋がっているのではないかと私なりに考えているところでございます。

(東濃鉄道 田中)1本運行当たりの乗車人員も増加しているんですか。

(事務局)そうですねちょっと手元に資料がないんですけど1便あたりの利用者数は増えております。

(座長 松本)ただ、増便は29年ですよ。だいぶ前に増便をしてそこで、一気に便利になって右肩上がりの基調が生まれたんですね。そこでコロナが来ましたので、そこでガクンと減ったんですが、美濃加茂の場合は3ページ目の表を見てもらいますと令和元年が、9万5000でR2でやっぱりコロナの影響で8万8000、ところがR3で10万3000となって、R元年を超えたと。多分今の田中さんの一番のご質問は、このR3が10万3000になったのが、その理由だと思いません。いろんなご努力されていますのでそもそも右肩上がりの基調がありながら、さらに増えた部分は、おそらく高校生ではないかと。今ですね、R元年とR3年比較してもらいますと増えているのが、あまちの森・しょうよう線、フルーツ線、さとやま線、古井駅-可児川駅線なんですね。ここが元年に比べて増えているところなんですけど、これって全部高校に関係するんですか。

(事務局)そうですね。基本どの地域からも美濃太田駅まで来ますと、古井駅-可児川駅線で、市内3高校にいけるという仕組みになっておりますので、どの地域からも学生さんがいけば、そういう使い方が可能ということになります。

(座長 松本)ですので、これしっかり調べてもらおうといいなと思っておりますが、ご高齢の方々の利用は減ってるんだと思います。他の自治体と同じように。例えば総合福祉会館と木沢病院に行く利用が減ったっていうことですので、ここは元年に比べても減ってるんですね。ですからやっぱり減ってるんですよ。ただし、それ以上に高校生が利用するようになってきたんで、その分がプラスアルファになっているというのが一つの分析かなという気はしております。この高校生って昔は何で通ってたんですかね。

(事務局)おそらく自転車。今も自転車の方が多と思います。今は特に雨の日の利用が多くなってまして、それまでは雨の日は多分親の送り迎え。そこをバスが代替できるんだということがある程度定着してきているのではないかと思います。

(座長 松本)さらにスマホも使えますし、高校生もスマホがあれば便利に使えますし、LINE Payでも払えますし、LINEで使ってるかどうかわかりませんが、ということだそうですね。

(岐阜県タクシー協会 黒田)今回出すのは資料1と書いてある別添の1と別添の1-2だけと言われました。3ページ目ですね。もちろん国に出すところはそのままということもありますが、3ページ目の一番右側にありますこれがですね、私としては、折角出していただいているんですけど、そんなに厳しくやらなくても、もっと良い評価をあげられるのではないかとこのところがあって、Cをつけるっていう理由がよく分からなかった。今回、80とか90とかっていう高いところもあります。このCをつける意味を私はわからない。Bでもいいのではないかなど。

(事務局)3ページ目の表の中でですね、参考というところでR元年度比というところで、赤字でマイナス表示になっている部分を、そのB評価との分けというか、そのBと同じでいいのかということもありまして、事務局としては判断をさせていただいたんですけど、おっしゃっていただけるようなことであると事務局としても大変嬉しいということになります、そういう思いがありましてそこに差をつけさせていただいた。

(座長 松本)なるほど。これ国に出さないからいいですけど、もし国に出す資料でこういう評価すると他の自治体困っちゃいますよね。もうDかEがつかないといけなくなっちゃうんですよ。ここだけの評価ではありますけど足並みを揃えるという意味では、ましてこの1万3000に対して130というのもある意味、誤差の可能性もありますよね。1万5000に対して83もこの辺は明らかにもう誤差の範囲だと思います。6000に対して220となるともうちょっと大きいんですけど、それにしてもそんなにものすごい減少だということではありませんし、そもそも全体としては大きな減少がある中で、この数字というのは非常に健闘していらっしゃると思いますし、現実的にいろんな利用促進策やられておりますので皆さんの合意が得られるならB評価と変更したいと思いますよろしいでしょうか。

→異議なし

では、B評価で。

(岐阜運輸支局 宮川)あらかじめ評価基準をきっちり決めておいていただいた方がいいかなと思います。目標数値に対して何パーセントということでしたらそれでもよろしいかなと思いますし。あと確認させていただきたいんですけど、A3の紙の中に利用が落ち込んでいるバス停がありますが、利用が落ち込んでいるバス停に何か共通していることはありますでしょうか。もし何かそういう分析ができていれば、来年度の目標の設定とかにもつながると思いますし、運行の改善とかの参考にもなると思います。

(事務局)比較する中でですね、今まで全然使ってなかったバス停が急に増えていったとかですね、今までたくさん使ってたのに急に減っていたという状況がありまして、ひょっとすると1人高校生なりでも通っていた方が卒業してしまうと、全く使われなくなったり新たに使うようになるという、そういう状況でちょっと詳細がODとかそういうものがないものですから、推測するにはそういう、増減があるということで。多分日常的に使われてる方がそうやって1人控えられたりとかそういう影響がまず大きいのではないかなというふうに捉えて

おります。あとは先ほどお話したやっぱり商業施設付近のバス停とか、今言った高校、ここがやっぱり大きく違っているっていうのは推測の通りだと思うんですけども。個別のバス停につきましてはちょっとそこまで詳細な状況っていうのは把握できていません。

(岐阜運輸支局 宮川)時間帯別で比較すると、例えば日中の落ち込みがあるのであればお年寄りの利用が減ったんだろうとか推測ができると思いますので、もし可能であればそういうような分析をしていただければいいかなと思います。

(座長 松本)はい。ありがとうございます。そうですね。これだけ出てきましたし、おそらくいろんなところからも問い合わせが今後きますので、それに答えられるためにも、その辺しっかり見ておいていただくといいかなと思っております。よろしいでしょうか今回皆さんにご承認いただきたいのは資料1-1と資料1-2になります。特にこの資料1-1のABということですが、ここにはCがございません。ちょっと厳しめで本当はもうあまちの森・しょうよう線、さとやま線でもAでもいいぐらいかなあとは思いますが、本当の意味のAがあるので、それと比較した上でBということの判断で、今回は国の方に申請しようということですが、よろしいですかね。特にご異論ないようでございますのでこの資料1-1資料1-2をこの交通会議として承認するというご異議ございませんでしょうか。はい。ありがとうございます。ではご承認いただいたということでこの形で支局の方に提出をお願いします。それから先ほどご説明がありました、この後支局と詳細を打ち合わせして、例えば細かな数値とかですね、表現等々が一部修正されることはご承知おきいただければと思っております。

⇒議第1号協議が調う。

・報告事項1 中部国際医療センターを経由する路線について

(事務局)報告事項1、中部国際医療センターを経由する路線についてご報告をさせていただきます。中部国際医療センターの開院に合わせて、令和4年1月3日からあい愛バスの3公園連絡線が経由することとなっております。これによりまして、1日に8往復ここを経由することになりますが、最近になりまして、病院の方から、患者の皆さんの通院にバスを利用したいというニーズが高まってきているということを受けまして、さらに増便をして欲しいと強く要望されておるところでございます。ただ状況が今ちょっとわかっておりませんので、今後、実際の利用状況を把握した上で、必要な対応を検討していきたいと考えております。資料2-1をご覧ください。中央の水色の線が3公園連絡線を表しております。来年の1月からこの路線の一部が中部国際医療センターを経由することとなります。中部国際医療センターの方でも、独自のニーズ調査結果に基づきまして、当面の間、利用状況を把握しながら、資料2-2にも掲載しておりますが、無料送迎バスの運行を行うこととしております。そういったことを踏まえてですけれども、今後の利用状況によりまして、あい愛バスの増便の検討が必要となる場合は、この3公園連絡線のみで対応するという事は現状として難しいということもありまして、近くを運行する他の路線で経由できそうな路線、例えば紫色のさとやま線であったりとか、濃いピンク色のフル

一ツ山之上線、ほたる線は難しい可能性もありますが、そういった他の路線を利用しまして、経由する回数を増やすことで便数を増やすようなことも一つの手段として今後検討していけたらと考えております。このようなことで今後増便や経路変更によりまして、ダイヤ改正の必要がある場合は、改めまして当協議会の方で協議をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞご承知ください。以上となります。

(東濃鉄道 田中) まず一つ目のご質問ですけど、既存の木沢記念病院のバス停の名称は変えられるのでしょうか。

(事務局) 名前が正式に決まりました時点で、ダイヤ改正と合わせて変えたいなと思っております。概ね何か名称が決まったようなことも聞いておるんですけども、まだ正式にはちょっと打ち合わせさせていただいていませんが将来的には変えていきたいと思っております。

(東濃鉄道 田中) 弊社の方が今、木沢病院まで八百津線が入っているんですが、そのバスを中部国際医療センターまでの延伸も今検討に入っております。実際には病院さんがやられるのは無料なんで、兼ね合いもありますし、あい愛バスさんは有料でやられるという中で、ちょっとこの辺のところで時間帯もちょっとってこともありますので、またそういう話があったら、うちも混ぜていただきたい。ちょっと今できるかどうかというのには検討段階ですので、必ず延伸するというわけではないんですが、考えてます。

(座長 松本) いやそれは非常に望ましいですね。休憩時間とかしっかりと取れるのであれば、ぜひ延伸していただくと、八百津の方々もダイレクトで行けることになるわけですね。はい。すごくいいなと思います。ただその場合ダイヤ調整を上手にやっていただかないと、重なっちゃって全然利用されないことにもなりますので。またあい愛バスも増便ということになると、いかにこうダイヤをうまく使い分けるかということですので、その調整していただいた上で、できるだけ便利に行けるようになっていくといいなと思いますが、事務局はそれでよろしいですか。ただ本当は病院に行かないのが一番いいんですけどね。市全体の計画と言えぱり元気で歩いて元気でというところですので、本当は病院に行かないといいんですけど、行かないとまたそれはそれで交通事業者さんとしては困っちゃうんですけど。はい、ありがとうございます。

・報告事項2 第1回美濃加茂市公共交通将来検討会議について

(事務局) 報告事項2 第1回美濃加茂市公共交通将来検討会議についてご報告させていただきます。美濃加茂市の未来の公共交通につきまして、有識者の皆様に自由な発想で夢を語っていただきまして、そのご意見をもとに当市の夢の実現に向けた取り組みに繋げることを目的としまして、この会議を立ち上げさせていただきました。この第1回目の会議を令和3年11月1日に開催しまして、市長のほかアドバイザーとしまして、本日会議を進行していただいている松

本先生にも入っていただきまして、5人の有識者の方にご参加いただきまして、バスの自動運転化やMa a Sの構築など、将来の当市にふさわしい公共交通のあり方につきまして夢を語っていただきました。今後、令和8年度には当市の公共交通のあり方や政策を定める地域公共交通計画の見直しも控えておりますので、ここで語られました夢やご意見をご参考とさせていただきますまして、実現できるものはぜひ取り組み、また大きな課題であることはさらに検討を深めていくなど、当市の公共交通政策の推進や課題解決に繋げていきたいと考えております。資料3をご覧ください。こちらは会議録の抜粋になりますけれども、この会議で語られました中でコミュニティバスなどの地域公共交通は「have to do」とされます病院や買い物など、行かなければならない移動を主に支えているところですが、さらに「want to do」も大変重要となりまして、カラオケや習い事など、行きたいところに行ける移動を支えることも、移動サービスとしてやはり今後考えていくべきといったお話とかですね、無料で乗れるエレベーターというものをバスに置き換えまして、これからはバスを無料で移動する水平エレベーターというものにしまして、このエレベーターを自動バスにしまして、誰でも自由に便利に移動できるサービスを作りましょう、そういったとても夢のある話や重要なキーワード、それを得ることができております。今後の公共交通のあり方を考える上では、大変実りのあるものとなっております。

(座長 松本)はい。ありがとうございます。これに関しまして何かご質問ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。これをもとに、ぜひ将来の素晴らしい絵が描けたらいいかなと思っております。自動運転も含めてですね。

・報告事項3 「あい愛バス」に関するアンケートの実施結果について

(事務局)それでは報告事項3に関しましてご報告をさせていただきます。あい愛バスの利便性向上に向けまして、平成27年以降ですね、定期的に希望者を募りまして、利用者の声やアイデアを伺うおしゃべり喫茶を開催してきておるところですけれども、このコロナ禍によりまして、令和元年度から開催を見送っているところがございます。そういったこともありまして、あい愛バスに対する直近のニーズや課題等を把握するために令和3年8月から9月にかけて、アンケートを実施させていただいております。紙媒体によるものだけではなく、インターネットによる回答もできるようにさせていただいて、156件の回答を得ることができました。資料4をご覧ください。アンケート結果の一部を抜粋してお示ししております。1ページ目にある8項目の内容について調査をさせていただいております。そして、2ページ目になりますけれども、問1として年齢の結果を載せておりまして、幅広い世代の皆様からご回答をいただくことができました。そして3ページ目になりますけれども、問2、利用頻度の結果となりまして、日常的に利用している方他、一度も利用したことのない方から

の回答も一定数ございまして、利用する方に加えまして、利用しない方も関心を持って回答いただけたということをお大変ありがたく感じております。次に4ページ目になります。問3、利用目的の結果となっております。25歳から59歳の方では、どの世代も2割以上が通勤に利用しております。あい愛バスが目指す役割としましてはまだまだかもしれませんけれども、一定の成果となっているのではないかと捉えております。続きまして5ページ目の上の段の表になりますが、問4、利用する路線の結果となっております。どの路線もそれぞれの世代に幅広く利用されております。沿線の人口規模の差はありますけれども、どの路線も同じように利用されているというふうに捉えております。下の表につきましては、問5、利用頻度と満足度の結果になります。一度も利用したことのない方の66.7%が現在の路線やダイヤに満足していないということで、まだまだ今以上の利便性を求める方がいるということもわかります。このことに対しましてはどのような改善があったのかということも踏まえて、今後の見直しの中で検討していくべき課題であると考えております。続きまして6ページ目になります。問6から問8、ご意見ご提案として記述いただいたものの一部抜粋を載せております。運行間隔の改善、増便、新ルートやバス停の追加、バス停のベンチの設置など、さらなる利便性の向上や待合環境の向上に期待するご意見が多くあります。この改善には、バスの増車とか運転手の確保、運行距離の延長など、そういったことを行う必要もございまして、やはり経費の増加も見込まれるということがあります。またベンチの設置には設置スペースや安全性確保のための規制も厳しいということもございまして、解決すべき大きな課題もやはりあるということで、なかなか容易には実現できないと考えております。今後ですね、必要性や重要性、代替りの良い手法などがございましたらそういったものを検証していくとともに費用の確保など課題解決に向け検討していきたいというふうに考えております。またキャッシュレス決済の種類の追加、その他、乗車率がわかるアプリの開発についてのご要望というのもございまして、これにつきましては、これまでもICT技術を活用したサービスの提供によりまして、若年層などの関心や利用を高め、新規利用者の獲得に努めてきたということもございまして、費用対効果にも配慮する必要がございまして、前向きに取り組んでいきたいと考えております。現時点では様々な制限によりまして、実現できないことも多いということは事実ですけれども、今後、バスの自動運転化やデジタル技術が進展してくれば、人件費やサービスの運用経費とか、そういったものが大きく削減されることも期待されますので、その場合には現状では大きな課題であっても、解決されることもあるのではないかとこのように捉えております。そのときに向けまして、いただいた貴重なご意見を参考にさせていただきまして、今からできることを努めていきたいというふうに考えております。以上となります。

(座長 松本) はい。どうもありがとうございました。このようなアンケートで利用者のニーズを図っているということでございまして、何かご質問ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

(長良川鉄道 小島) 資料の一番最後に「美濃太田駅の列車に合わせてほしい」というお客様のご要望がありますが大半はJRさんの関係だと思っておりますけど、長良川鉄道に通学のお客様が非常に多くご利用いただいております。そのお

お客様から長良川鉄道の列車の時間に関係するご要望等ございましたでしょうか。

(事務局)朝の高校へ行く便につきましては、JR、長良川鉄道も踏まえて、接続できるように配慮しております。ただそれ以降の便につきましてはその間隔の問題で、そのときに合うものにあっていますが、朝に関しては限られた中で合わせるようにさせていただいております。

(長良川鉄道 小島)担当でいろいろとダイヤを組んでいる。帰りは高校生の皆さんは分散して帰られるので、帰りに合わせて欲しいという意見がございましたら、最終的には今ちょっと調整をさせていただいてる部分もありますので、またご質問ご意見いただきたいと思います。

(座長 松本)はい。ありがとうございます。あい愛バスに乗って、美濃太田まで出てきて長良川鉄道で帰る場合その接続便としてあるといいなというようなのがわかればそれに合わせダイヤを組んでくれるということです。またぜひそういった状況を長鉄の方にも提供いただければと思います。

(岐阜県タクシー協会 黒田)今度はちょっとタクシーから見てなんですけど。あまりにも充実していてタクシーの入る余地がないのかなど。この資料3でしたかね、その中にもタクシーのことも少し書いていただいて、タクシーの役割も少し出てくるのかなど思ってますけども、結果と対策というところが示されるのか、もし示されるのであれば、その中にタクシーもありますよの一言ぐらい入れて欲しい。

(座長 松本)これ回答は特にしないんですかね。

(事務局)活性化協議会の結果とか今のご意見につきましては公表させていただきますので、そこに今のご意見を追記する形で、議事録に載せます。

(岐阜運輸支局 宮川)アンケートはどのような形で募集されたのかということと、毎年こういう形でやっていくのかということをお尋ねしたい。

(事務局)対面でするっていうことは重要だと考えておりますので、やはり可能であればおしゃべり喫茶を開きたいなという思いはございます。今インターネットでも簡単にアンケートできますので、そういったものを併用していききたいと思います。アンケートにつきましては、全バス車内にアンケート用紙を設置したというものと、市のメールシステムによりまして、あい愛バスの情報を得たいという方に対しまして、メール配信によりまして、インターネット回答をいただいている。QRコードを読み込めるようにバスに配置させていただいて、読み込んだところからアンケートが回答できるようにしました。

(岐阜運輸支局 宮川)バスを利用しない方にも届くようにということで、メールでもされたということですね。バスを利用されない方の意見も聞けるアンケートを今後もできるといいと思います。

(座長 松本) バス車内においてこれだけの方々が答えてくれたわけですね。それだけ関心が高いんだというのが現れているかなと思います。バスに乗ることが目的って何でこんなにいるんですかね。ご高齢の方で、私も他の自治体で調査したことがあって1日10回ぐらい乗ってる方がおられて、バスに乗るのが目的なんですそういうのは確かにあるなと思うし、ちっちゃい子が乗りたいっていうのはわかるんですけど。

(事務局) スタンプラリーするようなイベントも途中でさせていただいたりして、その影響もあるかと。

(座長 松本) よろしいでしょうか。今回はおしゃべり喫茶ができないということでこのようなアンケートをされておりますが、引き続きおしゃべり喫茶と、そしてQRコード等で気軽にできるのであれば、こういった調査も引き続きやっていただければと思います。ありがとうございました。

・報告事項4 あい愛バスの利用状況について

(事務局) 報告事項4についてご報告させていただきます。資料5をご覧ください。資料の一番下の部分になりますけれども、今年度につきましては、4月以降7月まで、それぞれの月で過去最高の利用となっております。しかしながらやはりコロナの影響も確実にございまして、第4波に伴いまして、5月には高校の休校、第5波に伴いまして、8月から9月には高校の分散登校や総合福祉会館の休館などの影響も受けまして特に8月と9月は利用が落ち込んでおります。そういった一方で、コロナが落ち着きました7月、10月、11月につきましては、月当たりの利用者数が1万人を超えてございまして、7月、10月で1万人を超えるのは、初となっております。特に10月につきましては、過去最高となる月当たり1万396人となっております。先ほどの路線の評価の中でもお話しておりますけれども、少しずつ利用の定着に加えまして昨年10月のダイヤ改正、4月以降高校への利用促進PR、外出機会の高まりなどによりまして、通学や買い物などの移動手段としまして、より多くの方に利用しやすいものとなってきているのだと感じております。またその影ではですね、乗り残した利用者に対しましても、予備車にて送迎対応いただいている運行事業者様のご尽力というのもありましてこのことには大変感謝しているところでございます。なお令和3年度のあい愛バス利用者の目標は、10万8000人としておりますけれども、現況を踏まえまして年度末までの利用者は10万9000人を上回る見込みとなっております。この目標も達成できる見込みとなっております。今後も統計データを効果的に活用しまして、減少や改善を行うとともに効果的な利用促進策を実施するなど、より良い公共交通となるよう努めたいと考えております。そして前回の会議でもご案内させていただきましたが、10月25日からサービスを提供しております、スマートフォンで定期券、回数券の購入利用ができますQUICKRIDEにつきましては、12月20日時点で、定期券が17件、回数券が29件の購入となっております。現在は高校生の利用が多くなってございますが少しずつ利用が伸びておるところでございます。今後さらに広い世代の方に利用が広がることに大変期待しているところでございます。こういったことによりまして、当然利用者の利便性が高まることもありますけれども、私達職員にとりまして、窓口での発行

事務の軽減にも繋がってきますので今後も利用促進に向けましてPRに努めたいと考えております。

(座長 松本)はいどうもありがとうございました。ではこの件に関しましてご質問ご意見等あればいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(東濃鉄道 田中)QUICKRIDEの実績が定期券17件、回数券29件ということですが、割合を伺えたらと。

(座長 松本)全定期券の購入に占める割合は。

(事務局)全対象が、今一般高齢者を含めまして100件ぐらい。(QUICKRIDEは)今高齢者は0なんですけど、若年の人が17件なので、17%ですね。

(座長 松本)これいいですよ。普通、普通定期券と違って市役所行かないと買えないとか本当限られて、そもそも買いに行けなくて困ってる。これできたらすごくいい。ちなみにどうやって買うんですか。

(事務局)スマートフォンでQUICKRIDEというアプリを入れていただきますと、このアプリの中にその登録しているバス会社が出てきてまして。支払いはクレジット決済になります。

(座長 松本)なるほどこれいいと思いますね。はい。そのほか何かございましたら。

(岐阜運輸支局 宮川)QUICKRIDEを利用されている事業者さんなりどこかが払わないといけないと思いますが、手数料等はどのようになっているのですか。

(事務局)支払い額の6%を手数料としてお支払いするということになっております。6%ですので、適正かなと今考えておるところです。

(座長 松本)それは市が負担してるってことですか。

(事務局)そうですね運行事業者さんの経費として支払われますけど最終的には市が経費負担をするという形になっております。

(座長 松本)そういうことですね。はい、ありがとうございます。日本はこの手数料が高いんですよ。諸外国に比べて、ですから広がらないんですよ。ちょっとこの構造なんかして欲しいんですけどね。いずれにしてもこうやって本当にいろんな努力、工夫されているという実態がお分かりだと思います。逆に言うところこういうことをやるとちゃんと利用者の方々ってのは増えてくるんだという非常にいいモデルケースなんだろうなあと思っております。諦めずにこういった形で利用促進を今後も続けていただければと思っております。

・報告事項5 EVバスの外装デザイン(案)について

(事務局) 資料6をご覧ください。本年の第2回の会議におきましてこのEVバスを導入するというところをご報告させていただいておりますけれども、納車が来年1月末の予定ということになってきました。この車両のデザインが概ね決まってきましたので、ご紹介をさせていただきたいと思っております。基本的なデザインはご覧の通り、これまでも統一しております一目であい愛バスとわかるデザインを基本としております。そしてEVバスのシンボルマーク、バスにプラグがついたものになりますけれども、シンプルでわかりやすいものとしておりまして、できる限り大きなサイズにするとともに、EVバス車であるということによりPRできるよう、EVバスの文字もロゴ化しまして、後方に配置をしておるところでございます。それに加えて、SDGsの推進に向けた取り組みの一つであること、それに加えて市民らの意識高揚も図りたいという思いから、SDGsのロゴについても、配置しておるところでございます。納車後に、この外装ラッピングを行いまして、2月中旬には運行できる予定となっております。その頃には市内を走る姿を皆さんお目にできることと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。以上となります。

(座長 松本) はい。ありがとうございました。デザインが決まったということですが、これに関しましてご質問等ございましたらお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。GVじゃなくてEVなんですね。これGだと思っちゃいますね。

(事務局) 電気っていう意味を表すマークなんです。電源の象徴としての意味を踏まえたものでございます。

(座長 松本) 解説がいろいろあります。逆にそれが面白いですね。Twitterで話題になったりしますね。

・報告事項6 美濃加茂市地域公共交通活性化協議会の報償費の支払いについて

(事務局) それでは報告事項6についてご報告をさせていただきます。当協議会規約および当協議会の報償費、費用弁償等に規定に基づきまして、これまで県市の職員および公共交通、交通事業者の関係者の皆さんを除きまして、市長が認める学識経験者の方と住民代表の方に、対面で会議にご出席いただいた場合に報償費をお支払いしております。しかしながらこのところですね、やはり書面形式も増えてきておりまして、そういった書面表決の場合におきましても、会議出席される場合と同様に皆様方には責任を持ってご判断をしていただくとともに、そのための時間を割いていただいておりますので、書面表決の場合においても同様に報償費を支払うこととさせていただきます。この扱いを、今年度からとしまして、第3回、第4回の書面表決に対しまして報償費の支払いをさせていただきたいと考えております。このような取り扱いにつきましては本年4月に市の附属機関に関する規定にも同じような委員報償の定めがございますのでその支払い方につきましても、そのように変更されておりますので、同様に取り扱うことは適切であるというふうに判断しております。なおこの書面表決の場合は2時間未満の会議として、取り扱うこととさせていただきますので

ご承知いただきたいと思います。資料7と資料8としまして、当協議会の支払いについて定めています規約等を添付しておりますのでまたご参考にご覧ください。以上報告とさせていただきます。

(座長 松本) はい。ありがとうございます。書面の場合にも報償費が支払えるようになるということですがこれに関しましてご質問ご意見等ございましたらいただきたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。はい。どうもありがとうございます。以上で全体の予定の議題全て終了でございますが全体を通しまして何かございましたらお聞かせいただきたい。では藤井さんお願いします。

(美濃加茂市健寿連合会 藤井) 2点お願いします。1点目はですね、事業の評価を出されるわけですが、それ以降どうするかが重要になってくるんです。1つには敬老会を中心に無料券を配布されておりますね。その利用状況がどんなふうかなというのが1点と、もう1点は今後の利用客の対策として、地域の無料乗車を試験的にやってみたらどうか。それから中部国際医療センターのアクセス、要は交通が非常に混雑するのではないかなど。従業員が1000名近くいる。それに患者さんということになって、現状の交差点で果たしていいのかどうか。これに対する市として何らかのアクションを起こしておられるのかということをお尋ねいたします。

(事務局) 高齢福祉課の方で無料乗車券を以前お配りさせていただいた経緯がございまして、その無料乗車の部分で数字の方は私どもも把握はさせていただいておりますが、その数字はまた改めて出ささせていただきたいと思います。今、選挙ですとか、そういった1週間単位とかそういった単位で無料乗車の方はさせていただいておるんですが、そういったニーズもあれば一つ、今後取り組みとして検討させていただきたいと思うんですが、路線ごとになかなか分けるっていうふうにはいかない部分もあるものですから、そこは少し検討課題だと思っております。特にこの日は無料乗車ですよって一気に全部決めてしまえば、今の定時定路線という性格上できるんですけど、この区間だけっていうのはなかなか今法制度上少し難しい部分もあるものですから。そういった意味で検討をさせていただきたいと思います。

(美濃加茂市健寿連合会 藤井) いずれにしても検討をしていただきたい。要はこの評価よりも、よくなる手法として、検討を加えていただきたい。

(座長 松本) おそらく意図としては利用促進、特にご高齢の方々にとって、バスの利用というのは、ハードルが高いところもありますので、その無料体験乗車のような機会を作ってまず乗ってみましょうという、機会を与えましょうということですね。あの藤井さんが想定される地域ごとによってのはどんなイメージなんですか。

(美濃加茂市健寿連合会 藤井) 要はこの表にあります。

(座長 松本) 路線に沿線の地域ってことですかね。なるほど。はい。ありがとうございます。一つの方策としてはありうるなと思いますが、おそらく、地域

の方かどうかというのを判別はできないので、ある路線に関して、無料、ただその無料の分は市が負担しないといけないので数をどう数えるかとかいろいろ出てきますけど、それはいろんな方法で可能だと思いますので、一つの案としてご検討くださいということですね、ありがとうございます。それから中部国際医療センターのアクセスが大混雑するのではないかとということですが。

(事務局) そういう疑念があるのは承知しておりますので、そのためにも、こうしたシャトルバスですとか、あい愛バス、JR、あるいは長鉄を使っただいて、バスに乗っていけるということをやったり進めていく必要があると思いますので、今回8便を1月3日から想定しておるんですが、もっとより便数を増やせるようにダイヤを変更してですね、間隔はどうしても空くもんですからその空きも含めてですね、使いやすいということを目指しながら検討しておるもんですから、そういった意味で少しでもやはりバスを使っただいていけるんだよと理解していただけるような形で進めていきたいと思います。また医療センターの方も、シャトルバスの必要性ということをおっしゃっていただいているもんですから、自らシャトルバスも運行しながら、そういった試験的な部分も、進めていきたいと思うんですが、やはり市の窓口の方に、医療関係者の方や利用者の方、通院される方、非常に問い合わせが多くなっているもんですから、やはりそういう意味でもニーズとしては、皆さん使いたいということは、結構把握できていますので、そこについて、いかに利便性を上げるかということでも今後取り組んで参りたいと思います。

(美濃加茂市健寿連合会 藤井) 回答いただきましたが、要は信号ですね。南北あるいは東西の信号を例えば警察に頼んでもう少し調整をとってもらおうとかそういう動きはどうなんですか。おそらく年が明けると非常に渋滞がひどくなるんでね、そういうことを踏まえて頼んでおられるのかどうかということをお聞きします。

(事務局) 今時点でどういう状況になるかというのはあくまで想像でしかないものですから、想像の段階でどう対処していくかというのはなかなか難しい問題だと思います。従いましてこのバスの増便というのも同じなんですけれども、少しその状況を見極めさせてもらって無駄のないと言いますか、功を奏したような対策は当然考えていかなければならないかなと思っていますんで、どの段階でできるかというのはまだ分からないですけれども、ぜひ動いていきたいと思っています。

(加茂警察署 青木) 例えば岐阜タンメンの交差点が今のところ東西が増えるのか南北が増えるのか予想がつきにくいかなと私は思います。状況をみてということになるかと思います。大きい道路ですね。例えば21号とか41号線の信号機なんかはある程度交通量を把握しながらコンピューターが勝手に秒数を決めるというような信号機がありますので、幹線道路についてはおそらくそういうのに合わせてとかが可能なんですけど、今言ったピンポイントの交差点はですね、ちょっと様子を見てですね、どっちが多いとか。ただそれで触るとじゃあこっちの方がっていうのがあるかもしれません。今の段階でこうするっていうのは私どもも今のところは無いですけれども、開院した後の状況をよく見極めなが

らというところにはなるかと思えます。私たちも気にはしておりますが、皆さんの声ですね、市の方や当然市民の方からもここが混むよとかあれば行くんですけど、両方混んでいるというのをこっただけっていうのも難しいところもあるので、交通量に合わせた最適になっていくことになっていくと思えます。また色々な情報がありましたら加茂署へご連絡いただけたらと思えます。

(座長 松本) 確か医療ツーリズムなんかも目指しているとおっしゃられましたよね。海外からお客さんも呼ぼうという中で周辺が混雑してるんじゃないかとちょっと恥ずかしいし情けないしぜひ市としてもやれることやっていたらいいという気はしております。ありがとうございます。

(東濃鉄道 田中) 一番最初にレアバスラリーというチラシを置かせていただきますけども、例えばこちらが先程の、アンケートで、バスに乗ることが目的ということを目指したもので、本数が少ないところに乗っていただいてスタンプラリーみたいなもので集めると賞品を出しますよということこちらで言うと、美濃太田駅から八百津のファミリーセンター。こちらに乗っていただくと、1ポイント稼げると。本数が少ないところに合わせて、稼げるポイントが違って、全部埋めていただくと、うちのバスの看板がもらえるということで、これ10月から始めまして現在1名、この看板をゲットした人がいます。学生さんは休みの都合がありますので、冬休みの期間中回られて、ポイント稼がれる方がちょっと増えるのかなと。2枚目が東京宿泊パックということで、高速便を出しています。隣の可児市からになりますけれども、なかなかご利用がない中、特に年明け、大学受験の方を対象にして正直申し上げてこれ、ほぼ利益がないような状態で、空でバスを動かしているというつもりで出させてもらっています。3つ目が都市間高速バス記念乗車券ということで、150枚限定で発売させていただきました。可児市からの分なんですけれども、おかげさまで今百数十枚まで、もうすぐで完売ができると思っておりますけれどもこういったことをしております。今弊社の方では、こちらから名古屋方面への高速バスについて、検討はしておりますけれども先般、美濃加茂市様の協力を得てアンケート実施させていただきました。弊社としては、通勤用の方が多いのかなというふうにお考えおったんですけれども、実際アンケートを取ると昼間帯で休日、買い物に利用したいという方が意外と多いのかなとアンケート結果ではそういう感じを受けました。こういう時期なものですから、確実に利益が上がるものじゃないというところとしては踏み切れないというところでもうしばらく検討させていただいて、できれば名古屋への直行便ができたかなと思っております。その中で通常のお客さんに対して何か1つ宣伝というか後押しできるようなものがあると需要も伸びるのかなというところもございますので、皆さんの方からこんなことやったらお客さんが増えるんじゃないのか意見がありましたら言っていただければ私どもとしても公共交通事業者でこういう時期でもなんとか会社を継続していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(美濃加茂市健寿連合会 藤井) GoTo トラベルの活用はできるんですか。

(東濃鉄道 田中) 国がやる GoTo は細かいことは年明けに決まってくるので、今の段階では何ともお答えしかねますけれども、今の宿泊パックのですね。

(座長 松本) 東鉄グリーンツアーさんがGoToに申し込んで使えるようにしてもらおうと、使う人はGoToが利用できるようになりますので、ぜひされますよね、きっと。

(東濃鉄道 田中) GoToをやれる事業者には申請をいたします。

(座長 松本) それから名古屋直行のやつですけど、確か国土交通省の補正予算で実証実験に対しての補助もできますよね。あれ事業者さんに対する補助ですよ。そういう手を挙げられたらどうですか。

(岐阜運輸支局 宮川) 補正予算が通りましたので、募集がありましたらお知らせいたします。ちょっと仕組みが難しく、うちの方に申請じゃなくて、観光庁の下にある事務局に申請になるので直接的なお手伝いができるか分からないんですけど、そういったことが始まりましたら情報提供をさせていただきたいと思います。

(座長 松本) なるほど。そういうのをぜひ積極的にご利用いただいて実証実験でまず名古屋まで通してみる。でどういう需要があるかと見てもらうといいですよ。アンテナ張っていただければと思います。せっかくのこういう情報提供もぜひやっていただければと思いますし、愛知県内の自治体でもこういうのがどんどん出てきてますのでぜひ活用いただければと思います。その他いかがでしょうか。

(美濃加茂商工会議所運輸通信部会) 1つ、地域からご相談があったんです。あい愛バスのドライバーさんのマナーの問題ですが。道が狭いからすれ違いができない。だから譲り合わないといけない。目立つカラーなものですから、あい愛バスさん来たなと思って待っているんですが、手を挙げるなりありがたいの合図が全くない。という声を聞いたものですから。それが1件2件じゃなく結構聞くんですよ。もう少し気持ちのよいすれ違いをしていただけたらと。

(座長 松本) そういうのって、結構やっぱり地元の方々見られてますので、ドライバーさん、乗客を安全に守る運転だけで大変だと思いますがそういうときには、クラクション鳴らすとかありがたいと手を上げてもらうとかしてですね。教えていただきありがとうございます。そういう意見交換すごく重要だと思っております。ありがとうございます。朝日さんいかがでしょうか。

(住民代表 朝日) 私もこういう役員やらしていただいて結構あい愛バスに関心を持っておるんですけども、最近ちょっと定着してきたのかな。太田の駅の裏の所を見ても、昼中の2時頃でも、何人かは待ってみえますんで、結構利用価値が増えてきてるなど。また、中部国際医療センターができればもっともっと上がると思います。またこれから高齢化が、我々も使わないといけない時代が来るとは思いますけども、増えると思います。どんどん今こうして、平成の29年からやって、確実に利用者は増えていて嬉しいことと思っております。いろいろアイデアとか、いろいろ市の方もね、やっていただいて。それとこの間はいっぺん乗らしていただいたら、夜光の反射材をいただいたり、客集め

というかいろいろ努力が伺えます。

(座長 松本)はい、ありがとうございます本当にこのあい愛バスに関してはいろんなアイデアでいろんな取り組みを行われてるなど私も感じてまして、すごいアイデアマンがどっかにいてあるいは皆さんでブレインストーミングしながらやってるかもしれませんが、すごくいいなと思ってますので引き続きこういった動きを続けていただければと思います。どうもありがとうございました。では以上で会議の方は終了として私の進行はこれで終わりたいと思います。どうも皆様方ご協力ありがとうございました。

6 閉 会